

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第57号

平成29年11月14日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

近畿各地から200名を超す参加者 四條畷の誇り、楠正行を全国に発信

10/28 四條畷楠正行の会発足3周年記念事業開く！

大阪府下16市町村他、広島、東京からも

正行ゆかりの地、観心寺、如意輪寺も

10月28日(土)、四條畷神社の神社会館で、四條畷楠正行の会発足3周年記念事業「武士道の人、楠正行 今、蘇る！」を開催しました。



↑大阪電気通信大学の学生と一緒に

この日、台風が近畿半島に接近し、早朝から雨が降り、悪天候にもかかわらず、午後2時の開場時には、会場内(座席105席準備)はほぼ満席になり、立ち見の人に加え入り口付近で人がごった返す盛況となりました。

受付で記帳いただいた方の地区を見ると、大阪府16市町村(大阪市、大東市、寝屋川市、河内長野市、千早赤阪村、堺市、岸和田市、枚方市、交野市、東大阪市、八尾市、豊中市、富田林市、河南町、羽曳野市そして四條畷市)、京都府3市(八幡市、京都市、京田辺市)、奈良県1市2町(大和高田市、平群町、吉野町)、兵庫県3市(神戸市、明石市、川西市)、広島県広島市、東京都江戸川区、と近畿各地からお越しいただきました。



↑記念事業の様子を伝える産経新聞(10月29日付朝刊)

東市長、湊川神社、四條畷神社も

公務多忙の中、東市長、森田教育長を始め、観心寺永島名誉住職、如意輪寺加島副住職、湊川神社教化渉外課の鈴木様、四條畷神社南井榊禰宜等を来賓に迎え、協力・後援いただいた御社、小楠公偲ぶ会、四條畷市立教育文化センター、なわて学実行委員会や多数の市幹部職員も参加もいただいた。

基調講演は、安本氏の「楠木考」取材秘話

基調講演は、産経新聞特別記者編集委員の安本寿久氏

による「今、何故 楠氏一族を取り上げるのか」と題して、産経新聞の超ロングランの特集記事の取材秘話をお話いただきました。

楠正行絵本6分冊1巻本、完成

大阪電気通信大学の学生による楠正行絵本は、スクリーンに映し出される6分冊の主な頁を説明しながらの発表となりましたが、会場からは、初めての子ども向け絵本の仕上がりに、驚きと感嘆の声が上がりました。

「正行の学び」「正行の友」「正行の大志」「正行の恋」「正行の情け」「正行の最期」の6分冊一巻本が完成し、この日、四條畷楠正行の会に頂きました。この絵本は、若干の監修を加えて、後日、四條畷市を通じて四條畷図書館に寄贈する予定です。(写真右下)

詩吟、歌、踊りに会場から多くの拍手

特別出演は、四條畷市詩吟連盟の吟詠(「零丁洋を過ぐ」「楠公 子に決るるの因に題す」「小楠公の母を詠ず」「小楠公の墓を弔う」「楠公を詠ず)、ひまわりコーラスの歌(「青葉茂れる桜井の」「四條畷」「ふるさと)、さくら会の踊り(「河内音頭」「河内酒」「楠公まつり)で、それぞれ、“静と動”が交錯する中で、会場を一つにして盛り上がり、会場から多くの拍手をいただきました。

朱舜水作、楠正行像賛発見の物語

最後を締めくくった、扇谷の「朱舜水作 楠正行像賛発見の感動物語」は、極めて史料の少ない楠正行顕彰に、何か新たな史料がないかと探し求めた結果、埋もれていた朱舜水作の楠正行像賛発見に至った経過をお話ししました。そして、「今後、この楠正行像賛の普及による正行顕彰にご協力を」と、呼びかけました。

今回の事業は、産経新聞社の後援をいただき、同紙の大阪府下版に予告記事を掲載していただいたこともあり、大阪府下、ほぼ全域からの参加がありました。地元の四條畷市からは100名を超す参加があり、大東市14名、寝屋川市8名、大阪市4名、河内長野市と千早赤阪村が3名でした。

悪天候で、足許の悪い状況となりましたが、楠一族、とりわけ楠正行に関心をお持ちいただき、お集まりいただいた方々に感謝します。また、座席がなく、立ち見となった方々にお詫びし、ご協力に感謝します。

私たちの会が目指す、郷土の誇り、楠正行の顕彰のためにと、この記念事業を開催しましたが、これを機に、今後、ますます正行顕彰が進むことを願っています。

反省！ もっと、正行の理解が進む取組みを

十数人の会員が、それぞれ役割分担をして企画運営にあたりましたが、これだけ多くの人を集めて無事開催できたことに、安堵し、素直に喜んでいきます。



↑開会前の会場の様子



↑基調講演する安本産経新聞特別記者編集委員

しかし、反省材料もあります。

正行顕彰が、本来の開催目的でしたが、四條畷市ゆかりの楠正行の生きざまや人物像について、十分、情報を提供できませんでした。集まった多くの人たちから、「もっと、正行自身のことが知りたかった。」「正行の生きざまを知らなければ、絵本の意味が理解できない。」などと、声をいただきました。

知られざる楠正行の実像・人間像を、十分に知っていただくことで、今回制作した絵本の意図や朱舜水作の正行像賛の発見の価値が、より深く理解いただけたのではないかと、大いに反省しています。

私たち四條畷楠正行の会は、正行顕彰の更なる取り組みを進めます。入会、大歓迎です。例会は、毎月第2火曜日の午後1時30分から、四條畷市立教育文化センター(四條畷市南野5-2-16 電話072-878-0020)の2階ホールで開いています。気軽に覗いてください。

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)

